

(資料2)

「社団法人日本女医会による連携会議共催事業」

団体名：社団法人日本女医会

項目	企画内容
趣旨・目的	思春期の課題は、喫煙、飲酒、薬物などの長期にわたる健康障害を引き起こすような問題に加え、性の健康に関する問題も多く見られている。とりわけ、性感染症の罹患や、望まない妊娠、性の権利に関係する暴力や、ハラスメント、ジェンダーアイデンティティの問題などは身体的な健康問題に加え、精神的な面においても、夢を描き未来に向かう思春期の子ども達に大きな影響を与える。 そのため思春期の子ども性の健康を守るため、多くの専門家が力を結束して、それぞれの取り組みと課題を検討し、新しい知見を得るための講習会を開催する。
共催	愛知思春期研究会
名称	講演会「女性への性暴力を考える」
日時	平成 23 年 11 月 13 日（日） 午後 1 時～午後 5 時
場所	ウインク愛知（〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）
対象者	・一般市民 100 人程度 ・関係団体 50 人程度

内容（構成等）	講演会「女性への暴力を考える」 ① 「当事者が語る性同一性障害」 GID Proud 代表 安間優希 同性愛や性同一性障害の人などセクシュアル・マイノリティといわれる人々は、自殺の「ハイリスク層」であるといわれる。学校や職場でイジメの対象にされるということとともに、誤解や偏見の多い社会にあって、当事者自身が自分を肯定できない現実がある。また悩みを相談する先が少ないという問題も大きい。身近な相談相手であるはずのご家族や学校の先生が、何気なく発した言葉に傷つき、相談できない場合も多く、実際に相談しても二次被害にあうケースもある。男性から女性へとトランス（性別移行）した性同一性障害の当事者である講師は、名古屋を中心とした自助グループ活動を通じて多くのセクシュアルマイノリティと接している。セクシュアルマイノリティについての情報は、以前と比べて増えたとはいえ、まだまだ誤った情報や一面的な見方も少なくない。講師の体験を通じて、当事者がどのような思いをもっているのかを知り、「性の多様性」についての理解を深める機会としてほしい。 ② 「性犯罪と性被害の防止」 愛知県警 平成22年7月26日、性犯罪被害者支援のための拠点として、愛知県警や病院、民間によるサポートセンター「ハートフルステーション・あいち」が全国で初めて開設された。ハートフルステーション・あいちでは、性犯罪の被害者が、医療的な処置や証拠の採取、その後の処置、精神的ケアが必要な場合はカウンセリングも受けることができ、被害の回復に向けたアクセスを1カ所で済ますことができる。このハートフルステーション・あいちの紹介と、愛知県での性犯罪被害についてお話する。 ③ 「思春期のデートDV」 岡山・ウイミズクリニックかみむら院長 上村茂仁 岡山県で子どもたちからのメール相談を受けている。リストカット、援助交際、出会い系サイトなど、メールの内容は様々であるが、近年増えているデートDVに関しては、すべての病院がDVのアンテナを張っていないと見つける事は大変難しいと思われる。 ④ 「名古屋市内のDVの現状」 名古屋市男女共同参画センター 景山ゆみ子 名古屋市では男女平等参画を推進する拠点施設として「つながれっと NAGOYA」を開設しており、女性のための相談や男女平等を阻害する要因の調査などを行っている。つながれっと NAGOYA では年間3000余件の電話相談があり、女性が職場や家庭などで直面する様々な問題について相談を受けている。なかでもDVは近年相談件数が増えてきており（夫婦関係3割、暴力3割）、名古屋市内のDVの現状についてお話をする。
---------	---